

# 青森市議会だより

## 第2回 定例会の報告

令和6年5月31日～6月26日

青森市議会議員：自民クラブ

# 柿崎 孝治



事務所：〒038-0058 青森市羽白沢田70-4

TEL：090-4887-1907

FAX：017-718-5675

### 青森地区都市公園について

**Q** 近年、野木和公園においては、あおり桜マラソンや青森春まつりなどのほか、青森市森林博物館での公園一周をするイベント、水辺散策園八重桜フォトコンテスト、大人数でのボランティア活動、海外からのインバウンド観光客など、認知度は県内外の方々で高まってきたと思います。多くの利用者のみなさんや観光客のみなさんが、野木和公園をはじめとする都市公園に来園するにあたっては、施設の維持管理は非常に重要であると考えます。野木和公園など青森地区の都市公園の維持管理方法をお示しください。

**A** 都市公園は、人々のレクリエーションの空間となるほか、緑による良好な都市景観の形成、オープンスペースの確保による都市の防災性の向上など、多様な機能を有する都市施設であり、本市では、野木和公園を含む青森地区127か所の都市公園を設置し管理しています。このうち、合浦公園や平和公園、野木和公園など18か所については、指定管理者制度を導入し、その他の都市公園については、市が直接管理を行っています。市では、これら都市公園の安全で快適な利用環境を確保するため、○遊具や東屋、ベンチなど公園施設の点検 ○トイレや園内の清掃作業 ○草刈や樹木の剪定、薬剤散布 ○降雪に備えた低木類の雪囲いや遊具の取外し ○積雪等による遊具や東屋などの施設の雪下ろし などといった維持管理を行っています。この他、公園をより美しく、親しみのある憩いの場とするとともに、住民参加による緑のまちづくりの推進を目的とした公園愛護会が設立されている公園においては、当愛護会による公園内及び外周道路等の清掃、除草のほか、遊具その他公園施設の破損、公園樹木における病害虫の発見等の通報、公園利用に係る啓発などといった活動が行われています。



**Q** 合浦公園、平和公園、野木和公園の公園面積をお示しください。

**A** ○合浦公園は、約17.0ヘクタール ○平和公園は、約3.0ヘクタール、○野木和公園は、約33.9ヘクタール、となっています。

**Q** 野木和公園における昨年度の施設修繕の実績をお示しください。

**A** 野木和公園における令和5年度の修繕実績については、あおり桜マラソンや青森春まつり開催前に、○ピクニック広場、こどもの国、林間散策園に設置されているトイレの手洗い水栓の交換 ○ピクニック広場に設置されているトイレのエントランス部分のタイル修繕 ○こどもの国に設置されている東屋の屋根の修繕 ○園内道路の舗装の補修（パッチング）などを行っています。○ピクニック広場と水辺散策園を結ぶ湖上大橋の高欄修繕 夏休み前に、○ふるさとの森と水辺散策園に設置されている園内案内板の修繕などを実施しています。

**Q** 園内には、こどもの国、ピクニック広場など5つのエリアがあるが、それぞれの整備された時期をお示しください。

**A** 野木和公園は、こどもの国、ピクニック広場など5つのエリアに分かれており、○遊具が設置され大きな広場となっている約4.1ヘクタールの「こどもの国」は、昭和49年度から昭和59年度 ○ソメイヨシノなどが植樹され青森春まつりのメイン会場ともなっている約3.5ヘクタールの「ピクニック広場」は、昭和49年度から昭和59年度 ○広く大きな広場で散策やグランドゴルフなどを楽しむことができる約4.9ヘクタールの「ふるさとの森」は、昭和59年度から昭和62年度 ○多くのヤエザクラが植樹され水辺散策園八重桜フォトコンテストの会場となっている約4.3ヘクタールの「水辺散策園」は、昭和63年度から平成4年度 ○自然の樹木を活かし自然との触れ合いを楽しむことができる約3.8ヘクタールの「林間散策園」は、平成元年度から平成10年度に、それぞれ整備されています。

**Q** 予算を増やして大規模に園内施設の修繕を行って、快適に利用できる環境とすべきであるが市の考えをお示しください。

**A** 野木和公園については、整備完了から年数が経過しており、様々な施設の修繕が必要な状況となっており、公園全域で修繕や改修を行うことが有効な手段であると認識しています。しかしながら、野木和公園以外の都市公園や開発緑地、児童遊園等においても経年により様々な施設の修繕が必要な状況となっていることから、市内全体の公園施設で、破損や経年劣化により安全に利用できない施設の修繕や、あおり桜マラソンや青森春まつりなどの多くの公園利用者が見込まれるイベント前の修繕など、緊急度や優先度を勘案し修繕や改修を行っています。今後とも市民の皆様へ安全で快適に都市公園等を御利用いただけるよう、引き続き適切な維持管理に努めてまいります。



### 要望

あおり桜マラソンスタート地点野木和公園関連です。2点要望があります。1点目にランナーの皆さんが快適に過ごせるよう、ウォーミングアップ等で利用される園内を含む周辺道路の補修に引き続き取り組んでいただきたいと思います。2点目に今後も継続して富士加代子さん、西市長と奈良岡議長のお力添えで青山学院のランナーをよんでいただきたいと思います。そして地元の業者からも、次回の大会において、ぜひランナーへのおもてなしとして、あま酒の提供をしたいとの意向が寄せられております、引き続き地域を挙げて協力していきたいと考えています。本大会が、青森市のスポーツツーリズムの核として、より多くのランナーに参加してもらえるよう、今後も地域と連携した大会運営に取り組んでいくことを要望いたします。

### 令和5年第1回一般質問【青森市天然記念物「黒松」の現状について】

「黒松」は、長期間にわたって剪定が行われていなかったことから、令和3年4月、密集している葉や枝の間引きとともに、国道280号線沿いの歩道に覆いかぶさった枝などの剪定作業が行われました。当初は、全体的に枝葉が少ない状態だったが、現在では、国道側の枝葉はまだ少ないものの、その他の部分では新芽が伸びた部分が多く見られ、順調に枝や葉が増えてきています。教育委員会では、剪定後の「黒松」の状況について、今後とも定期的に確認していくとともに、貴重な文化財として維持していけるよう、引き続き「黒松を守る会」が行う保護活動に協力してまいります。この黒松は、老齢の樹木なので、時間がかかるかと思いますが、枝葉の回復については、私も関心をもって見守ってまいります。6月29日 樹木医さんとの黒松の勉強会に出席、現状の把握と今後の対策案などの意見を出し合いました。



## ホタテガイについて

**Q** 昨年の記録的な高水温の影響で陸奥湾のホタテが大量に死んだ問題。陸奥湾全体では被害にばらつきがありましたが、稚貝のへい死率について、青森市漁協の管内全体を平均すると90.3%、野辺地町漁協では63.8%、平内町漁協では平均で61.3%などになっていました。特に青森市漁協管内は非常に悪く壊滅状態になっていました。このことは水揚げの減少など影響の長期化が懸念されています。青森市漁協、青森市後潟漁協のホタテガイ生産の最新の状況をお示ください。

**A** ホタテガイの生産状況については、令和6年1月から4月までの生産量は、青森市漁業協同組合及び後潟漁業協同組合の合算で約9トン、生産額は約3百4万7千円となっており、令和4年の採苗不振の影響があった昨年同時期の生産量約224トン、生産額5千7百72万9千円と比較し、減少しています。

**Q** ホタテガイの生育が懸念されているが、今後の調査予定をお示ください。

**A** 本市では、漁業者がホタテガイ養殖を適時適切に行えるよう、県及び水産総合研究所とともに、ホタテガイの生育状況についての各種調査を実施しており、これまでに、○親貝となる2年経過貝の成熟度合いを調査する「親貝成熟度調査」、○海水1立方メートルあたりの浮遊幼生数を調査する「ラーバ調査」、○採苗器1器あたりの稚貝の付着数を調査する「付着稚貝調査」、○湾内の養殖施設における半成貝の収容枚数及びへい死率等を調査する「春季養殖ホタテガイ実態調査」を行いました。今後については、○今年度第2回目となる全湾付着稚貝調査、○湾内の養殖施設における稚貝及び新貝の収容枚数及びへい死率等を調査する「秋季養殖ホタテガイ実態調査」を実施する予定となっています。

### 要望

ホタテガイの生産が厳しい環境にある中、漁業者を勇気づけるため、公開で市長と漁業者との座談会を開催してはいかがでしょうか。

**A** 本市では、昨年の陸奥湾の高水温によるホタテガイへい死被害の影響をできる限り軽減するため、「青森市高水温ホタテガイ被害対策本部」を設置し、ホタテガイ高水温被害に対する緊急支援対策を講じてきました。このような中、今年のホタテガイの生産量の減少とともに、ホタテガイ浮遊幼生（ラーバ）の出現数や採苗器への付着数が平年と比較して少ない状況となっているほか、今後の海水温の状況も不安視される状況となっています。このため、ホタテガイ養殖漁業者においては、今年のホタテガイ生産はもとより、来年以降の生産継続においても大きな不安を抱えているところがあります。このことから、できる限り早い機会に、漁業者から直接現状を伺い、また、今後のホタテガイ生産について意見交換をできる場を設けたいと考えています。



7月5日、公開で開催された「漁業関係者との意見交換会」

### 【東奥日報記事から抜粋】

青森市は7月5日、昨夏の高水温の影響で水揚げが激減している陸奥湾ホタテガイに関し、同市内漁港で漁業関係者と意見交換した。漁業者からは「ホタテ養殖をやめる人も出てきている」などと窮状を訴え、西秀記市長は「今後でもできるだけ必要な対策を講じていく」との方針を示した。意見交換には、青森市漁協と後潟漁協の漁業関係者ら約20人が参加した。漁業者からは「今後も海水温は上昇していくと思う。副業としてホタテ以外の魚種も必要か」「稚貝を放流して育てる地まきホタテもやってみたらいいのでは」などの意見が出た。後潟漁協の山口組合長は「青森管内は水深が浅い所が多く、高水温の影響を受けやすい。ホタテの養殖をやめる人も出てきている。漁業人口が減るのではないかと危機感を示した。テレビ・新聞各社取材に訪れ報道されました。

## 旧町名表示柱について

**Q** 「浜町」は青森港新埠頭には一番近く、青森警察署向かいにある表示柱になります旧町名表示柱の修繕計画をお示ください。

**A** 近年では、令和3年度に2基、令和4年度に3基、本年度は3基の修繕を行いました。今後は、残る11基について、引き続き、同様の修繕を行っていくこととしています。また、全ての表示柱について防腐塗料の塗布及び由来板の交換後も、劣化状況に応じて修繕を検討するなど、適切な維持管理に努めてまいります。



## 広報あおもりについて

**Q** 青森市が市民に情報を伝える「広報あおもり」が今年度5月号から大幅リニューアルされました。1952年（昭和27年）に創刊され、今年度4月号まではA4サイズ、表・裏表紙がカラー、中身は2色印刷で親しまれてきました。5月号からタブロイド判とサイズは大きくなり、全ページフルカラー化、そして発行日は毎月1日となり、発行回数は月2回から1回に。毎号の平均は20ページから24ページ。横書きで左開きになりました。情報量は従来通りで変わらないということでしたが、慣れ親しまれたサイズと紙質の変更、月1回となれば市民の声や市民の意見が届いていると思います。広報あおもりのリニューアルに伴い、市民からどのような意見がでていますか。

**A** 広報あおもりのリニューアルに関して電話や市ホームページの「市民の声」ご意見応募フォームなどで市民から寄せられた主な御意見として、○カテゴリー分けされ、フルカラーになり読みやすくなった ○読み応えがあり良くなった。という読みやすさや内容の向上に関しての御意見がある一方、○紙面が大きくなり、保管しにくくなった ○右開きから左開きになり、また、紙質が薄くなり、めくりにくくなった。というサイズや紙質の変更に関しての御意見もあり、様々な御意見をいただいているところであります。今後は、こういった市民の皆様からの御意見も踏まえて、より魅力的で読みやすい紙面となるよう工夫を重ね、市民の皆様が親しみやすく、愛される広報紙づくりに努めてまいります。

### 要望

発行が月1回となったことで、市民の皆さんが慣れるまで時間がかかると思われます。今後もご意見や要望が届くと思いますが、愛される紙面づくりに努めてくださるようお願いいたします。

## 油川埠頭について

**Q** 令和6年4月26日、県の発表によりますと、洋上風力発電所の建設拠点となる、国の「基地港湾」に青森港が正式決定、県内の港での指定は初めて基地港湾として主に使われるのが油川埠頭で、令和9年度までの4年間に123億円をかけて地盤の改良工事など進めること。宮下知事は「洋上風力開発に加え、関係自治体と連携して新しい産業の構築や関連産業の誘致など進めていきたい」と述べ、基地港湾への指定をきっかけに産業や雇用の創出などにも取り組むことに意欲を示しました。



「基地港湾」が建設されることになった油川埠頭（木材港）

### 要望

○「基地港湾」に関しての住民説明会の開催。○漁業者への補償問題。○雪捨て場、油川埠頭は運搬車両や搬入時間の制限のない雪捨て場となっている代替地について。○臨海道路、ハッピードラッグ青森油川店を左折し油川埠頭を通り新城川にかかる新田橋を渡り沖館フェリーターミナルに抜ける道路は通勤のための主要道路となっています。「基地港湾」となっても利用できますか。また通行止めは絶対やめてほしい。○油川地区をはじめ北西部のまちづくりの雇用や創出などです。

### 令和5年第2回一般質問

#### 【開港400年についての要望】

油川浄満寺にある青森市指定文化財「森山弥七郎供養碑」の説明板が劣化しています。説明文も見直しが必要と思われます。早期に修繕を行っていただきたい。

#### \*要望に応じていただきました\* 修繕が実施されました

7月29日「森山弥七郎供養碑」の説明文は最新の研究に基づいた内容に見直され新しくなりました。文化遺産課鈴木課長は、「劣化していた説明板が美しくなり、文章も研究成果が反映されたものになって良かった。供養碑を多くの人に見学してもらうことで開港400年を盛り上げたい」と話されました。8月3日浄満寺で行われた油川連合町会主催の墓前祭で、出席された西市長や参加されたみなさんに確認していただきました。

